

平成27年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実 施 報 告 書

HT27104 里山の生きものにふれよう



開 催 日： 平成27年8月22日（土）

実 施 機 関： 東京農業大学

(実施場所) 川崎市早野聖地公園内早野梅ヶ谷緑地保全地区

実施代表者： 鈴木貢次郎

(所属・職名) 地域環境科学部造園科学科・教授

受 講 生： 中・高校生5名、及び小学5、6年生2名

関 連 URL： [http://www.nodai.ac.jp/news/category-detail.php?new\\_id=2449](http://www.nodai.ac.jp/news/category-detail.php?new_id=2449)

【実施内容】

神奈川県川崎市麻生区の早野聖地公園(霊園)にある早野梅ヶ谷緑地保全地区は、近年、減少している都市近郊の貴重な緑地である。一般には、「里山」ともいわれている。現地で、大きな社会問題となっている都市近郊での緑地(里山)の減少、あるいは生物多様性の減少、いきもの(特に植物)の稀少性・貴重性について、体験を含めて、実際のいきものをみたり、ふれあうことを重視しながら学習した。

実施当日の午前中は、この緑地に残っている貴重な植物(タマノカンアオイやキンラン、ツクバキンモンソウ等)や、園芸植物の原種として世界的にも貴重なジャノヒゲやヤブランとその近縁種、ヤマザクラ、イヌザクラ、ウワミズザクラなどの日本に自生するサクラの種、トンボやヤゴ等の水辺に集まる昆虫、樹木の幹に集まる昆虫等を観察した。また、温暖多雨気候の日本で、緑地(里山)を守るためには、どのような人と自然との関係が必要とするのかを説明した。この説明の際には、参加者が学校で使用している教科書の内容に関連付けられるようにした。

午後は、近年、緑地(里山)での大きな問題になっているタケの過繁茂の実情を見学すると共に、タケの生育の実情と過繁茂の原因、タケと人とのこれまでの関係、すなわち、これまでタケは食用、建築、家財等、人の生活にとってあらゆる場面で必要であったことを、具体例を示して説明した。説明後、このタケの過繁茂の生育から緑地(里山)を守るために、道具を使ったタケの伐採を実際に行い、タケの性質を体験的に学んだ。ただし、蜂なども多く発生したため、安全対策として作業を早目に切り上げた。

今回のプログラムでは観察できなかった多くの生きものを、今後も多く観察できるように整えていく予定である。そして、里山で多くの体験学習ができ、生物の重要性を学び、応用できるような研究・教育体制を広めていく次第である。また、事務局には、事前準備において、準備物の購入等や大学独自のチラシの作成、関連する高校等へチラシの配布等をお願いするなど、密接に連絡を取り合った。

なお、広報については、本プログラムの実施にあたり、周辺の関連校へのチラシの配布や、学内における諸行事(キャンパス見学会等へのチラシの配布)において行った。また、神奈川県での開催から県が主催する小中高生向け夏休みイベント等の特集をした「かながわサイエンスサマー」に本プログラムを掲載し広報活動に努めた。

今回は昨年度の反省から、1回の開催にしたが、やはり時期的なことも関連してか欠席者が多かった。また、この時期にハチが大量に発生して、受講生に危険であることから次年度以降行うことができるとしたら、開催時期を夏休み中の遅い時期に設定するなど、時期的な面及び安全面に考慮することが望ましいと思われた。

当日に行ったプログラムの内容と状況は、以下の通りである。

表 プログラムの内容

9:30-10:00	受講生 実施会場集合, 事務局と連絡(出席者の確認), 開講式(1日のスケジュールの説明, 科研費の説明), 現地移動
10:00-10:30	現地にて道具の取り扱いの注意, 危機管理指導
10:30-12:00	植物等の観察, 指導(途中休憩あり)
12:00-13:00	昼食
13:00-14:30	更新, 間伐作業の実施(途中休憩あり)
14:30-15:00	作業終了, 道具の取り扱い(片付け)の説明
15:00-15:30	修了式(アンケート記入, 未来博士号授与), 受講生解散 教員等スタッフ 道具の片付け
16:30	道具類の片付け, 反省会(事務局へ連絡), 解散



**【実施分担者】**

栗野隆 (地域環境科学部造園科学科・助教)

水庭千鶴子(地域環境科学部造園科学科・准教授)

金子忠一(地域環境科学部造園科学科・教授)

亀山慶晃(地域環境科学部造園科学科・准教授)

**【実施協力者】**       8  名

**【事務担当者】** 菅田 隆 (エクステンションセンター事務室)